

大 博物館だより

1990. 5.

No.3

津山郷土博物館



棚田暁山「武将出陣図」

棚田暁山 (1878～?)

現代の日本画家。明治11年(1878)津山に生まれる。本名梅吉。

東京に出て、「有職故実を誤った歴史画は無価値」とする小堀鞆音に師事し、土佐派を中心とする大和絵と有職故実を学ぶ。同門に安田靉彦がいる。

歴史人物画を得意とし、大和絵の伝統をふまえた精緻で迫力に富む作品を描いた。

日本美術協会の展覧会に度々出品して、褒賞も何度か取っている。文展開設の後にはこれにも出品しており、代表作に第9回文展の「写経の図」などがある。

「業平東下図」にみる富士

昨年10月に特別展「美作の近世絵画—津山狩野派の絵師たち—」を開催するとともに、津山市とその周辺地域の絵画調査を行った。ここでそのうち津山藩御用絵師狩野如水由信筆「業平東下図」を紹介する。この絵は6曲1双屏風で、左隻が富士山、右隻に在原業平の東下を描いたものである。

富士山を画題としたものは枚挙に遑がないが、雪舟筆「富士清見寺図」・狩野探幽筆「富士山図」・木村探元筆「富嶽図」など、いずれも同じ構図で、富士の高嶺を背景として、左方に清見寺とその門前町、右方に三保の松原を描いた作品である。如水筆の左隻、津山藩御用絵師狩野松甫宗信筆「富嶽図」も、三保の松原を省略したのみで他に変わりはない。

右隻は『伊勢物語』第九段の「業平東下」を描いたもので、同書に次の様に記してある。

ゆきゆきて駿河の国にいたりぬ（中略）

富士の山を見れば、五月のつごもりに雪いと白う降りり。

時知らぬ山は富士のねいつとてか

鹿の子まだらに雪の降るらむ



狩野如林「富嶽図」志茂 篤 氏蔵



（時節を知らない富士の峰よ、一体今をいつと置いて、鹿の子まだらに雪が降っているのだろうか、今はもう五月の末、夏も盛りだと言うのに）この画題は、俵屋宗達・尾形光琳などが得意としたものであり、如水筆の右

狩野如水「業平東下図」赤田 篤 氏蔵

◀左隻（部分）

▼右隻（部分）



隻も、三保の松原と思われる場所に業平一行を描いている。

さて、如水・松甫の描いた富士山は、高さの等しい三つの峯にわかれており、きれいに揃った「山」字型である。13世紀後半の作とされる『伊勢物語絵巻』に描かれた業平東下の段では、一応三峯型であるが整然としない形である。三峯の定型化は室町時代からといわれ、それ以後に描かれる富士山は、近世絵画の代表である狩野派を主として整然としており、狩野派を学んだ二人も例外ではない。

次に、富士山頂上をみると、如水筆の絵では特に雪を強調している。右隻で富士山を仰ぐ業平一行を意識してのことであろうか。

「業平東下図」は、江戸時代を代表する狩野派の粉本主義のあらわれであるが、琳派の代表作のひとつをうまく組合わせており、見る者に興味ある作品である。

（神尾）

特別展

『美作の鏡と古墳』

10月6日～11月11日

4世紀頃から7世紀頃にかけては、日本列島各地に前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳など、様々な形の古墳が盛んに作られました。

これらの古墳から出土する代表的な遺物に鏡があります。鏡や古墳を通して、当時の豪族や大和政権のしくみをうかがうことができます。

今回の特別展では、美作の古墳から出土した鏡と、その関連資料を通じて、美作の古墳時代を考えようとするものです。



記念講演会

日時／平成2年11月4日(日) 13:30～15:30

会場／津山圏域雇用労働センター

講師／奈良国立文化財研究所

埋蔵文化財センター長 田中 琢 氏

企画展

津山狩野派の 絵師たち II

8月4日～10月2日

平成元年度特別展開催以降の近世絵画調査の中から、狩野派の絵画を集成します。狩野派の調査研究は、まだ始まったばかりです。今後とも継続していく予定です。

展示替え

秋の特別展観

鍬形恵斎「江戸一目図屏風」

期間／11月中旬～12月中旬

博物閑話

棚田暁山

「武将出陣図」の正体は？

歴史人物画を得意とする暁山が描くこの武将は、いったい誰なのか、ずっと疑問に思っていた。全体に高貴な品性が見て取れるこの武将、猛々しさとは程遠い、穏やかな心性が感じられてならない。

この作品は郷土館当時から「武将出陣図」としてのみ伝えられており、作品のモチーフについては不明のままであった。ところが、博物館内での雑談で「背景の派手さは中尊寺の金色堂ではないか。とすれば、人物は源義経だったらおもしろいのに。」といったような話しになった。そこで、まず本当に金色堂かどうか、という点から調べてみると、どうやら間違いないという結論に達した。

画面左上隅に描かれている華鬘、人物背後の内陣の柱、そして人物が手を合わせている須弥壇の格狭間・高欄等、すべて金色堂のもの一致する。

しかし、確認できるのはここまでで、人物が義経である証拠がわからない。が、義経と仮定して考えてみると、話しのつじつまがあうのである。

それでは、出陣の準備完了した義経が、何故仏前に手を合わせているのか。出陣にあたって武運を祈

っているのか。だが、それだけにしては全体に穏やかではあるが、ただならない緊張感が漂っている。

ここで再び金色堂が鍵になる。問題は、人物の立っている位置が中央須弥壇の前ではなく、左須弥壇の前であるということだ。これには何か理由があるにちがいない。

金色堂は阿彌陀堂であるが、同時に藤原三代（清衡、基衡、秀衡）の墓処でもある。中央須弥壇には清衡、向かって左の須弥壇には基衡、右の須弥壇には秀衡が眠っている。とすると人物は、基衡の墓に向かつて手を合わせていることになる。義経の保護者として有名な秀衡の墓ならばわかるが、基衡の墓ではおかしい。暁山がうっかりしたのか。

そうではない。現在知られている墓の配置が分かったのは、昭和25年の調査によってであり、それ以前には、寺伝によって、左が秀衡の墓、右が基衡の墓とされていたのである。実は左右が逆だったなどと、暁山には知る由もなかったのである。

秀衡の死後、情勢は大きく変わり、頼朝と結んだ泰衡によって、義経は攻め滅ぼされるのであるが、義経はこの攻撃を事前に知っていたという。

死を覚悟した義経が、最後に秀衡の墓の前で手をあわせている姿、暁山のイメージしたものは、これだったのではないだろうか。（安藤）

平成2年度 講座のお知らせ

古文書講座 近世の手紙を読む

5月～12月

恒例の古文書講座ですが、今年は手紙を題材とします。さまざまな階層の人々の手紙から、近世社会の在り方を考えながら、古文書の読解力を身につけます。

津山市史講座

㊦(土)・㊧(土)・㊨(土)・㊩(土)・㊪(土)

5名の講師により、津山を中心とする美作地方の歴史を学習する予定です。それぞれ独立したテーマで、5回の講座からなります。

古典講座

6月～3月

古典的な史料の講読を通じて、歴史の学習を進めます。今回は美作近世史の基本史料である、「森家先代実録」をテキストとして利用します。

夏休みこども歴史教室

7月下旬 2日間

小学生を対象とした、歴史教室です。今回も体験学習を基本として、夏休み期間中の2日間で予定しています。

美作の文化財めぐり

6月・9月・11月・3月

郷土の歴史を足で学ぶための企画で、ハイキングを楽しみながら歴史の学習もやってみようというものです。

平成元年度 博物館事業報告

平成元年度に博物館で実施した主な事業は次のとおりです。博物館を支えてくださる多くの皆さんに心からお礼を申し上げます。

特別展 美作の近世絵画 —津山狩野派の絵師たち—

平成元年10月14日～11月12日

記念講演会10月15日(日)「狩野派の組織と御用」

岡山県立美術館 学芸員 守安 収 氏

津山市史講座

開講日	テーマ	講師
7/22(土)	美作の古代寺院	岡山理科大学講師 亀田修一
8/19(土)	近世のタタラ製鉄業	岡山県立博物館主任 田村啓介
9/9(土)	中世美作の国人	岡山県史編纂室主任 田中修實
10/14(土)	岡山県中国山地の旧石器	岡山理科大学助教授 小林博昭
11/11(土)	山中一揆について	岡山大学付属図書館 中野美智子

受講者 55人

夏休み子供劇場

平成元年8月6日

出演：人形劇場やっこ

「人形劇 星とりあまんじゃく」

夏休み子供歴史教室

平成元年8月3日・4日

考古学体験学習 参加者 25人

講座 中世文書を読む

平成元年5月～平成2年1月

美作に関係する平安末～室町時代の古文書の輪読

受講者 44人

美作の文化財めぐり

平成元年 5月28日 作東町 参加者 35人

平成元年 9月24日 勝山町 参加者 38人

平成元年 11月23日 院庄 参加者 33人

平成2年 3月21日 柵原町 参加者 65人

《博物館入館案内》

- 開館時間 午前9:00～午後5:00
 - 休館日 毎週月曜日・祝日の翌日
12月27日～1月4日 その他
 - 入館料 小・中学生 100円(80円)
高校・大学生 150円(120円)
一般 200円(160円)
- ※()は団体、団体は30人以上

大博物館だより No.3

発行年月日 平成2年5月31日

編集・発行 津山郷土博物館

〒708 岡山県津山市山下92

TEL.(0868)22-4567

大 は、旧津山藩の楳印で剣大といい、現在津山市の市章である。